

平成28年度鳥取西いなばフットパスの集いイベント

参加者数まとめ

		参加者
活動事例発表		20
交流懇談会		18
フットパス		36
コース別	殿コース	17
	河内コース	19

活動事例発表会(参加者数20名)

講師:フットパス研究所 井澤るり子氏
濱田孝正氏
中島久宜氏

タイムスケジュール

- ・16:00 長尾委員長 開会のあいさつ
- ・16:05 濱田孝正 フットパスとは?
広がり連携と様々な主体。地域の人が主役が継続する。
- ・16:30 中島久宜 よそ者が見たフットパス
- ・16:55 井澤るり子 美里フットパス&各地の事例 研修視察受入、コースづくりの支援
- ・17:20 全員 質疑応答
- ・17:30 修了

(主な内容)

- ・フットパスの基本は、マップを購入して自由に歩く「セルフランブリング」。そのほかガイドを付けてグループで楽しむ「ガイドランブリング」、そしてコースの宣伝のため実施するイベントに参加する方法がある。
- ・フットパスは様々な地域課題を解決することができる。商業振興、観光振興、環境の保全など。
- ・よそ者から見れば、地域の方が生活道路を開放し、生活の場に少しだけ参加させていただくことが最高のおもてなしである。いままで面うそうでもなかなか入りにくかった道路に入ることを歓迎されていることを感じられる。
- ・フットパスのコースは一周するものでなくてよい。立ち寄り、寄り道できるルートやショートカットできるルートなど、歩く側が自分の興味に従って自由に歩くことができる。
- ・歩いている人が直接地域住民にかかわることができる。普段活動に消極的な方も自然と巻き込むことができる。また、自然と地域の自慢について語る練習にもなり、地域＝地域に住む人々が生き生きとした「元気な地域づくり」を行うことができる。
- ・フットパスは地域づくりの土台である。住民それぞれが外部の方とかかわりを持ち、地域のことを話すことによってそのほかの地域づくりについて積極的になれる土壌ができる。

フットパスランブリングの様子（殿コース）



開会挨拶



地域の方が協力することで、こういう策の内側も通ることができる



農作業中の方に話しかける。このおじさんたちもフットパスの運営関係者になることができた。



コース中の石原農園を開放いただいた。出荷前の花を自由に見学。



布勢の清水の横で休憩ポイント。清水のコーヒーと抹茶羊羹がふるまわれた。



ちょっとわき道にそれて植物を観察しているようです。



軽トラマルシェ。殿の野菜が低価格で販売された。



ひととき大きな家の中にある鯉の池。目も前にあるバス停利用者もこの家の軒先を利用するらしい。快く見学させていただいた。



おにぎりと獅子汁の他、竹を切った入れ物に刺身コンニャクやイモを炊いたもの、バイカモの白和え 公民館の目の前にあるゆずを利用したデザートもあった。



その他ランブリング中の様子と昼食の様子。他にも公民館が生け花で飾られたり、箸袋に添えられた折り紙などこまやかな心遣いによる歓迎がありました。